

【児童への話】

5月も下旬になりました。お勉強や運動など、何をしても気持ちのよい時期ですね。さて今日は、よいお勉強の仕方についてお話しします。

「聞いたことは、忘れる。見たことは、覚える。やったことは、分かる。」という言葉があります。授業中、先生や友だちの話を聞いているだけでは、学習は身に付きません。「聞いたことは、忘れる」です。

自分でノートに書いたものや、DVDや実物を見たものは、それなりに覚えられます。「見たことは、覚える」です。でも、覚えたことは、使えなければ意味がありません。

そこで、何度も繰り返し練習したり、ちがうパターンの問題にあてはめて考えたり、それを使って友だちに説明したり、話し合っ解決したりするなど、自分から進んで学習すると、とてもよく分かり、自分の中にずっと残る学習になります。これが、「やったことは、分かる」ということです。

小学校でいろいろな教科の学習をするのは、なぜだと思いませんか？それは、皆さんがこれから生きていく上で必要な最低限のことを身に付けるため、そして、自分の中に、これから生きていくのに必要な知識の引き出しの種類を増やしていくためです。今はあまり好きではない学習でも、将来、意外な形で皆さんの役に立つことがあるかもしれません。小学校の学習で無駄なことは、ひとつもないんです。

校長先生は最近、皆さんの学習している姿を見て回っています。どの学年や学級も、真剣に学習している様子を見て、番町小の子はステキだなと感じています。中でも特に、6年生は、少しにぎやかながら、自分から進んで楽しみながら学習する人がとても多く、これが「やったことは、分かる」につながる、素晴らしい姿だと思いました。これからも、楽しみながら、自分から積極的に学習できる皆さんでいてください。今日は、よいお勉強の仕方について、お話ししました。

【本講話について】

人間の「記憶に残る割合」に関する、とある研究があります。次のとおりです。

聞いたこと 10%    見たこと 20%    映像視聴など 30%    話し合ったこと 50%

**★体験したこと 75%    ★★誰かに教えたこと 90%**

受動的な見聞きなどでは、学習事項は 30%程度しか残りません。能動的な話し合いでも半分程度。やはり、「自分でやってみること」「分かったことを伝えること」は、どの学習でも大切な活動であることがよく分かります。学校での学習時間は限りあるものです。子どもたちの記憶に残り、その後の生きた知識として活用することができるよう、対話的な学びを中心として、日々の学習を充実させていきます。